

新生ロシア一番乗り

高部英明

サハロフ著「サハロフ回想録」(脚注)の上巻を読んでいると、彼が友人について述べた章がある。かのゼルドビッチは長年の友人だったが、サハロフが反体制派として困窮したとき「彼は私を助けてくれなかった」と強い表現で書いている。そんな同僚達の中でサハロフを支え続けた人にザババヒン(Zababakhin) がいた。

彼は、今回、私が参加した「第3回 Zababakhin Scientific Talks (1/14 - 17)」を主催した All Union Institute of Technical Physics (以下 ITP) の所長を長く勤めていた人です(1984年死亡)。所員の信頼厚く、1988年に彼のメモリアルとして開催したのがこの会議の始まりとのこと。彼の誕生日が1/16であることから、この寒い雪中の会議となっている。第1、2回は国内会議であったのを今回始めて、外国人も呼んでの国際会議となった。

ロシアについては8月のクーデター失敗以来、連日マスコミでさわがれてきている。さぞ、混乱し、治安は乱れていることと、不安と好奇心の入り混じった気持ちで行ってみれば、さよにあらず、「聞くと見るとでは大違い」である。日本のマスコミはセンセーショナルに走り過ぎである。年末には「ロシア国内の航空便の三割ほどしか運行せず」などと大見出し。「さて、私もモスクワから目的地のチェリアピンスクへ飛べるのやら」と思いきや、何の、平常通りであった。「いつ、食料不足で餓死者がでるかもしれない」と日本のマスコミが言うからカップヌードル、カロリーメイト、キャンディー、チョコレート、さらには六甲の水2リットルまで持参した。しかし、現実はさにあらず。主催者の手厚い世話のお蔭もあるが食事も充分(イギリスの Dr. Youngs など「朝食が多すぎる(heavy)と思わないか?」と私に聞く始末)。ウォッカやワインを断るのに苦労しました。

会議はウラル山脈の麓(ヨーロッパとロシアの境界) ITP 研究所の近くで行われた。参加者が、ロシア人約200人、米5人(LLNL 3, LANL 2)、仏2人(CEA)、英2人(AWE)、中国5人と日本1人(私)。私たち外人は前列に席が用意され、ロシア人の発表は英語の同時通訳で聞きました。私たち外人の発表はセンテンスごとにロシア語訳です。出席者は殆どが ITP ともう一つの大研究所 Armazas-16(旧ソ連のロスアラモスと形容されている)の Institute of Experimental Physics (IEP)からでその他、モスクワやセミパラチンスク(旧ソ連の地下核実験場)などから集まっていた。

ITP は旧ソ連のリバモアに対応する研究所で所員1万6千人(内、理論家千人、実験家千人、

核兵器のデザイナー 2 千人...) とのこと。会議の話題は (1) 流体不安定性による乱流混合、(2) 物質の状態方程式、(3) HE(High Explosive:高性能爆薬) による爆縮やレーザー爆縮などでした。乱流混合の研究者が多いのには驚きました。会議の雰囲気は非常にオープンで「外国人熱烈歓迎」。私も次から次と名刺を渡され、対応に忙しかった。今やロシア人は共産党や KGB からの押さえが取れ、のびのびとしている感じ。戦後の日本人が軍部の圧力がなくなり「ほっと」した状況に近いと思われます。今のロシア人「アメリカ人、ダニーイ好き、西欧、ついでに日本もだあーい好き」です。

会議を終えた 1/18 (土) 朝 3 : 30 に起こされバスで 3 時間走って空港へ。8 時発の便が「平常通り」3 時間遅れで、モスクワについたのは 1 時過ぎ。ホテルに着いて、さえ市内観光と思ったのに、もう 3 時。日没は 3 時半。見物はあきらめ、7 時からボリショイ劇場でロシア・オペラ (リムスキー・コルサコフの作品) を観劇。立派なオペラハウス。皆さん美しく着飾っていて、しかも満席でした。1/19 (日) は ITP の Dr. Boris が「TOYOTA」で雪の市内を案内してくれました。市内は平穏。教会の中は日曜ミサに来た人で鯨詰め状態でした。

最後に気づいたことなど。タクシーに乗ると運転手がビートルズなど 60 年代のロックをガンガンかけている。モスクワには、専用放送局も出来たそうで、今までの欲求不満を一挙に解消しようとしているようだ。又、タクシーは「外人 (= ドル持ち)」と見ると料金も急上昇。市内 20 k m ほど走って 500 ルーブル (参考までに一般の人の月収が 400 - 700 ルーブル)。それを外人と見ると、20 ドル (今のレートは 1 ドル = 100 ルーブル) 要求してくる。「一回乗って月収が飛んでしまうタクシーにロシア人が乗るのか」と聞いてみると、これまた不思議、タクシー業界マフィアが取り仕切っているので云々。とにかく、今のロシアは闇ドル経済の世界。皆、ドルをほしがる。最近は、闇物質を扱って億万長者になる人が出ているそうです (いわゆる闇成金)。現在のロシアの経済状態は、たぶん戦後の日本の混乱期と対応させると理解しやすいようだ。配給食だけで暮らせば日本人がみな餓死していたはずが (実際、これを遵守した判事が 1 人餓死したのは有名) 皆、生き残った。これ、闇経済の不思議。それが今のロシアのようだ。

脚注 : この本は文庫本として上下巻の 2 巻が中央公論の 2 1 世紀文庫から再発行されている。